

医政メモQ&A

「比重を増す政治の力」

Q：今年7月参議院議員選立候補予定の宮崎秀樹先生の後援活動について？

A：後援会名簿集めは札医で25,000名を目標としていますが、山本情宣(医政)部長の熱意、努力にも拘わらず、まだ道半ばというところです。単純計算では札医2,800名近くの会員が1人10名集めると楽々オーバーする数値で、決して困難でないと思うのですが、関心を持ち協力して頂ける先生に限られた人たちのみというのが現実です。医師会員の無関心の理由は多岐にわたっているでしょうが、権謀術数、魑魅魍魎たる政界への嫌悪。医師たるもの、どろどろした政治にまきこまれるのを潔しとしないという考え方。昨今どの政党が政権をとろうとも、自由社会は不変だろうし、かといって改革もできないだろうとの安心感と諦観。しかし今回の選挙で再び宮崎先生を落選させ、医師会の団結のなさを露呈させるようなことがあれば、政治とマスコミが結託し、医師性悪説の立場から、我々の主張とますます乖離した医療施策を次々とうってくるだろう。

Q：宮崎先生の業績、国会活動について、ご教示下さい。

A1：昨年、健康保険法改正において、厚生省原案は老人保健患者負担は1日700円エンドレスであったものを、自民党役員会で発言し1回500円で4回までとした。

A2：9月1日からの薬剤負担については、参議院で再修正し、6歳未満の小児と70歳以上の低所得者を対象から外した。

A3：今回の医療費財源について、日医とともに自民党厚生大臣経験者(山下徳夫座長)と小泉厚生大臣との委員会に参加し、医療

現場の声を反映させた。詳細は紙面の都合で記せないが、2.2%以上の医療費アップを獲得した。

A4：3,320億円の不正請求の報道に関しては、自民党社会部会・医療基本問題調査会等において、その実態について述べ、半分は保険証の失効や事務的な不備であり、その他は保険者再審請求によって、ほとんど原審どおりとなっている事実を証明し、更に技官による一方的な査定もあることを明らかにし、不正でないことを説明し、理解してもらった。この事により衆議院の決算委員会の政府への医療費不正請求の調査申し入れは阻止できた。

A5：規制緩和問題については、営利団体の医療経営参入を認めることが経済企画庁の報告書に盛り込まれるのを寸前にキャッチし、官邸に陳情、医師会と連絡の上報告書から外すことができた。

A6：医業税制については、税制調査会で夜遅くまで出席し、事業税の非課税措置の存続をはじめ発言を繰り返した結果、これまでの医療に有利な諸々の税制を護った。

A7：過剰病床地域における病院建設に対し保険医療機関の指定をしないよう保険局長に答弁を求め、特に徳洲会病院に対して厳しい態度で望むことを認めさせた。

A8：准看問題は養成存続を維持することで、自民党の方針として決めさせた。

A9：介護保険法については医療と福祉の整合を法案の中に理念として認めさせた。

A10：その他、あらゆる場面で医療現場の声を発言している。初診料がいくらか知らない官僚、国会議員の中で現場の代表として、本会議、予算委員会、厚生委員会、自民党

社会部会、医療基本問題調査会、議員連盟、与党間の主導者に対してあらゆる機会に国民医療を護る立場で意見開陳を行っている。

なお、昨年12月19日に日本医師会をバックとして自民党国会議員190名による『21世紀の社会保障制度を考える議員連盟』を結成した。今後の医療政策の大きな応援団として活用していきたい。

以上、日医と緊密なる連携の上で、活動を展開しております。

Q：前回平成4年参議院議員選挙自民党比例区順位について、御教示下さい。

A：○は順位、()内は出身母体。

- ①井上 孝 (73歳、建設事務次官) ②下稲葉耕吉 (71歳、警視総監) ③村上正邦 (65歳、防衛政務次官) ④大島慶久 (58歳、歯科医師会) ⑤岡部三郎 (71歳、農水省局長) ⑥泉 信也 (60歳、運輸省大臣官房審議官) ⑦藤江弘一 (故人) ⑧野沢太三 (64歳、国鉄局長) ⑨岡 利定 (63歳、元郵政審議官) ⑩大河原太郎 (75歳、農水事務次官) ⑪永野茂門 (75歳、陸幕長) ⑫清水達雄 (63歳、国土庁事務次官) ⑬松浦 功 (74歳、自治事務次官) ⑭久世公堯 (69歳、自治省審議官) ⑮板垣 正 (73歳、陸少) ⑯南野知恵子 (62歳、看護協会) ⑰田辺哲夫 (67歳) ⑱田沢智治 (65歳、日大理事) ⑲檜崎泰昌 (69歳、名古屋国税局長) ⑳宮崎秀樹 (66歳) ㉑山東昭子 ㉒島崎 均 ㉓長尾立子 ㉔秋山 肇 ㉕平野 清 ㉖松井比呂美 ㉗山口光一の順で㉘位の日医母体の宮崎秀樹は歯科医師会や看護協会推薦候補より下位となり、あえなく落選した。

Q：現在の医系議員を御教示下さい。

A：**医師** 衆議院議員 (定数500名)

- 鴨下一郎 (49歳、東京13区、自民) 五島正則 (58歳、比例四国、民友連) 坂口 力 (63歳、比例東海、平和) 自見庄三郎 (52歳、福岡10区、自民) 中桐伸五 (54歳、比例中国、民友連) 中山太郎 (73歳、大阪18区、

自民) 桧田 仁 (56歳、比例中国、自民) 以上7名。

医師 参議院議員 (定数252名)

- 朝日俊弘 (54歳、比例、民友連) 今井 澄 (58歳、長野、民友連) 大島慶久 (58歳、比例、自民) 風間 和 (50歳、北海道、公明) 菅野 寿 (74歳、比例、社民) 佐藤泰三 (73歳、埼玉、自民) 世耕政隆 (75歳、和歌山、自民) 水島 裕 (64歳、比例、民友連) 宮崎秀樹 (66歳、比例、自民) 渡辺孝男 (48歳、比例、公明) 以上10名。

歯科医師 衆議院議員

吉田幸弘 (36歳、3愛知3区、自由) 以上1名。

参議院議員 木暮山人 (69歳、比例、自由) 中原 爽 (62歳、比例、自民) 以上2名。

薬剤師 衆議院議員 3名。参議院議員 4名。

看護婦 衆議院議員 1名。参議院議員 2名。

まとめ

人が政治を動かす、政治は我々の全てを決める。現実の政治を垣間見る 有岡二郎著、『戦後医療の五十年』(医療保険制度の舞台裏) から一部を抜粋して、私の稿を終わりたいと思う。

保険診療収入の課税所得率の問題では、武見も動いた。武見は、前年の25年8月に、医師会副会長を辞任していたが、吉田茂首相との姻戚関係から、吉田内閣の閣僚とは親しい関係にあった。

この時期のある日、武見は神奈川大磯町の吉田邸で、池田勇人蔵相と顔を合わせた。「定期往診のために行ったら、ちょうどなにかの打ち合わせにやってくる池田蔵相と一緒にになった」と武見は言う。吉田邸で夕食を一緒にしながら、話は診療報酬の引き上げ問題になった。

「池田さんは、『税金でまけとくから、それで我慢するように医師会のほうに話をつけてくれないか』と言った。そして『そうだなあ。30%くらいかなあ』なんて独り言のようにつぶやいた。診療報酬収入の70%

を必要経費とみなして、残りの30%だけに課税するというのだった。『けちなことを言わずに20%くらいにして下さい』とふっかけた。『うん、それでも良いなあ』と生返事をしながらしばらく酒を飲んでいたが、『君、医者だけあんまり安くすると、ほかのやつらがうるさくなって長く続かないから、28

%くらいがいいぞ』と答えた。この話を、谷口さんにした。『こういう話になっているから、いっぺん吉田さんのところに挨拶に行ってきた下さい』と。谷口さんは吉田さんに会いに行った」と武見は語っている。
(医政部担当理事 羽田 克己)

〈研修会のお知らせ〉

市立札幌病院内に札幌市医師会地域医療室が開設され、多くの会員の皆様にご利用いただいております。これを機に病診連携をより一層深めることを目的として、下記により研修会を開催いたします。(通常は第2週の木曜日に院内研修会を行い第4週の火曜日に剖検検討会を行います。)

なお、内容の詳細が決定するのは開催日近くとなりますので、地域医療室(川村)まで電話かファックスでお問い合わせください。

札幌市医師会地域医療室 ☎726-2211(2921) (担当 川村) FAX 707-7706

〈第794回市立札幌病院院内研修会〉

日 時：1998年5月14日(木) 午後5時30分
場 所：大講堂(2階)
主 題：「薬剤の気づきにくい副作用」
講 師：未定

(担当 皮膚科 嶋崎 匡)

〈平成10年市立札幌病院院内研修会担当科について〉

平成10年6月	呼吸器外科	平成10年7月	整形外科	平成10年8月	休会
平成10年9月	産婦人科	平成10年10月	病理科	平成10年11月	薬剤部
平成10年12月	看護部	平成11年1月	放射線科		

〈国立札幌病院院内CPC〉

日 時：1998年5月13日(木) 午後5時
場 所：国立札幌病院3階カンファレンスルーム
主 題：症例未定

〈がん情報ネットワークカンファレンス〉

5月7日(木) 16:30 がん専門病院における教育体制(国立がんセンター中央病院発信)
5月11日(月) 18:00 病理カンファレンス
5月13日(水) 18:00 骨軟部腫瘍カンファレンス
5月14日(木) 16:30 がん診療における細胞診の役割(千葉県がんセンター発信)
5月21日(木) 16:30 胆管癌に対する診断と治療戦略(茨城県立中央病院発信)
5月26日(火) 18:00 消化管テレイメージカンファレンス
5月28日(木) 16:30 悪性リンパ腫の新しい病理分類(国立がんセンター中央病院発信)
5月29日(金) 17:30 放射線セミナー

※上記セミナーについてのご案内は随時国立札幌病院のホームページ上で公開しています。
<http://www.ncc.go.jp/sap-cc/Network/schedule.html>